

16年ぶりのベスト8！昨年の王者  
国見との対戦に...

1 回戦大津(熊本)との対戦は、雪が降りしきる悪天候の中行われた。序盤、大津ペースで試合が運ばれるが盛商のDF陣が落ち着いた守りをみせ0-0で前半を折り返す。後半に入り序所に攻撃のカタチをつくる盛商が、5分にゴールを決め1-0で雪上の決戦を制した。

2 回戦玉野光南(岡山)との試合では、52分に先制されるも54、55分と立て続けにゴールを決めすぐさま逆転。結果3-0で3回戦へ駒を進める。

そして、3回戦津工(三重)との対戦。1-1で迎えた前半21分、山崎のパスを受けたMF藤館が左サイドからクロス上げる。ゴール前まで走り込んだ山崎がボレーで叩き込み逆転。山崎は「先制したのは良かったし、追い付かれて流れが悪い中追加点を取れて良かった」と大会初のゴールの喜びを語った。後半は、前線からプレスをかける盛商のサツカが展開され、3-1で16年ぶりのベスト8となった。

国立への切符をかけて行われた準々決勝は、昨年の王者国見(長崎)との対戦



【上】初戦は雪上での決戦に。山崎は献身的なプレーでチームの勝利に貢献した  
【左】国見に敗れ肩を落とす山崎(写真右)

山崎良介(MF)コメント

「駒大への進学理由は、サッカーが大学で一番強いので、そこで挑戦してみたいと思ったからです。(ポジション争いも激しいと思うけど)頑張るだけです。自分のアピールポイントは、長距離とか走るのが得意なので持久力です。何事にも負けない選手になりたいです。入学後の目標は、練習についていって早いうちに試合に出られるように頑張りたいです。まだまだ足りない部分が多いので、また一から頑張って生きたいと思います」

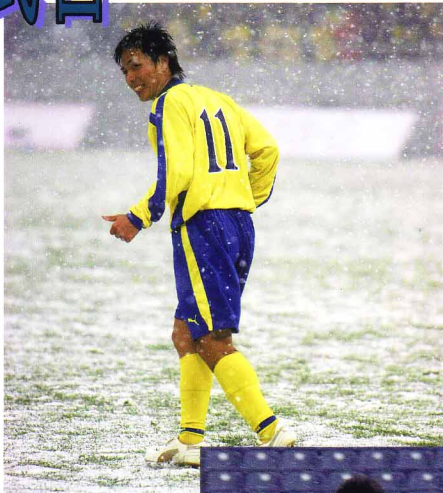
となった。前半、盛商は国見の速いプレスに苦しめられ、ボールをゴール前まで運ぶもシュートで終われない状況がつづく。そして、盛商は国見の質の高いクロスから崩され前半で3失点を許してしまう。しかし、後半に入り「諦めないでゴールだけを目標した」と山崎が語ったように、選手たちは諦めることなく国見ゴールへと迫った。47分、盛商のMF中野から受けたパスをFW福士が鋭いシュートで放ちゴール。この1点で勢いづき65分、DF斉藤のゴールで国見に1点差まで追いつくが2-3でタイムアップを迎え、32年ぶりの4強入りはならなかった。

西武台

1回戦、島田の劇的な同点ゴールで  
2回戦進出も藤枝東の壁越えられ

1 回戦対大分大分の試合では、前半5分に早くも先制。しかし、18分にDFラインの裏を抜け出した相手FWを志田がフアールで倒してしまい、レッドカードで一発退場してしまふ。39分には中央でボールをつながら、大分に同点弾を許す。後半は前半終了間際に追いついた大分が勢いを保ち、西武台には苦しい時間帯が続く。その勢いに押され、21分には逆転ゴールを許し、1-2の状態の後半ロスタイムを迎える。しかし、そこにはドラマが。DFの裏を抜け出した島田が起死回生の同点ゴールを決める。その勢いのままにPK戦も西武台が制し、2回戦進出を決めた。「押されていたけれど、一人少なくともDFが頑張っていたので自分が仕事をしなきゃと思った」(島田)。正に島田の同点ゴールがチームを救った。

続く2回戦は、藤枝東(静岡)との対戦に。前半は西武台がボールを試合。スピードのある島田を起点に攻撃をしかけ、幾度とチャンス作る。しかし、「相手の個々の能力が高く、プレッシャーも激しかった」と島田が言うように、藤枝東の



1回戦対大分戦で、貴重な同点ゴールを決めた島田。駒大でのポジション争いは熾烈を極めるだろう



【右】常に攻撃の柱となっていた島田。  
【左】志田は今大会17分の出場に留まった。しかし、この悔しさを胸に駒大で活躍を見せてほしい



堅守に苦しみ得点を奪えない。そして、後半流れを掴んだ藤枝東に0-2で敗れ2回戦で姿を消した。

島田祐輝(FW)コメント

「駒大の印象は、グラウンドも綺麗だし環境はすべてととのっていると思います。駒大に入ったら、プレーヤーとして全体的にひと回り大きくなりたいです」

志田亮輔(DF)コメント

「退場そのものは良い経験になりました。駒大に入ったらまず環境に慣れることが先決。具体的には読みの速さやヘディングなどをもっと磨いて、闘争心をさらに高めていきたいです」